

# CNA レポート・ジャパン

Conferencing News & Analysis, Report on Japan market - CNAReportJapan

創刊：1999年12月  
発行日：毎月15日・月末  
PDFによる発行

テレビ会議・ウェブ会議・電話会議システム市場専門トレンドワッチ

Vol.23 No.23 2021年12月15日

## 製品・サービス動向-国内

### ■CTC エスピー：クラウド型ホワイトボード 「Miro (ミロ)」を、12月8日から提供開始

(12月8日)

CTC エスピー株式会社 (<https://www.ctcsp.co.jp/>) (東京都港区) は、クラウド型ホワイトボード「Miro (ミロ)」を、12月8日から提供開始する。価格は10ユーザ利用で年間27万円(税抜き)。



Miro の画面イメージ (CTC エスピー)

Miro は、RealtimeBoard 社 (米国・カリフォルニア州) が提供するオンラインホワイトボードツールで、リモートでのリアルタイムな情報の整理や共有を可能にしてブレインストーミングや戦略策定を含めた Web 会議を支援する。

直感的な操作で利用できるインターフェイスを持ち、最大200人までの参加メンバーが画面を切り替えずに同時に書き込みができ、データの編集や保存も可能となっている。

また、Web 会議・ファイル共有・タスク管理など良く利用されるアプリケーションと連携が可能のため、Miro を利用しながら社外とのビデオ通話、既存データの閲覧、ファイルの保存がオンライン上で同時に行え

る。

さらに、アイデアの創出や思考の整理を行う「マインドマップ」や、業務プロセス・処理フローの作図に使われる「フローチャート」のように、会議の目的に応じた豊富なテンプレートがあらかじめ用意されており、Web 会議の円滑な進行と効率的な情報整理に役立つ。

この度、CTC エスピーは、Miro の販売に加えて、導入支援サービス、操作・不具合に関するヘルプデスク、運用のハンズオン・トレーニングなどお客様をトータルに支援していく。研究開発や新規事業に取り組む製造業や情報サービス業の企業を中心に展開し3年間で5億円上げを目指す。

CTC エスピーは、伊藤忠テクノソリューションズ株式会社 (<https://www.ctc-g.co.jp/>) (東京都港区) のグループ会社。IT 関連機器やソフトウェアの販売を行っている。

### ■ASUS Japan：省スペースで場所を取らない法人向けビデオ会議システムを発表、導入する環境に合わせて選べる2モデルを用意

(PRTIMES：12月3日)

ASUS Japan 株式会社 (<https://www.asus.com/jp/>) (東京都千代田区) は、省スペースで場所を取らない法人向けビデオ会議システム「ASUS - Google Meet hardware kit」を発表。

ASUS - Google Meet hardware kit には2タイプのパッケージがあり、導入する環境に合わせて選ぶことができる。

「Starter kit」(GQE15-A-B7016UN)には、キーボード内蔵リモコンが付属しており、「Small/Medium Room kit」(GQE15A-B7017UN)には、リモコンの代わりに 10.1 タッチモニターが付属している。その他、コンパクト PC、スピーカマイク、4K UHD カメラは両パッケージに同じ製品が含まれている。モニター付属の Small/Medium Room kit に比べ Starter kit は設置スペースを抑えることが可能。



Starter kit (ASUS Japan)



Small/Medium Room Kit (ASUS Japan)

PC 本体には、Intel Core i7 プロセッサ、M.2 SSD 128GB を搭載しており、コンパクトでスリムなデザインでありながらストレスの少ない高精細な映像を実現している。また、I/O ポートは、設置やケーブルの管理がしやすいように本体の片側にまとめられており、マグネット式のケースを付属のデスクトップスタンドやマウント用キットに固定することでどこにでも簡単に設置することができる。

また、カメラは、4K に対応しており、そのままの映像を鮮明に映し出す 120° の超広角カメラで、広さの

ある会議室に最適で、広角補正機能によりバランスよく歪みを補正するとともに、4K イメージセンサーによるデジタルズームで被写体を正確に捉えることができる。

スピーカマイクには、スピーカーとマイクの 2 つの機能がひとつのデバイスに集約され、360°、半径約 6 メートルまでの範囲をカバーできるようになっている。エコーや雑音を抑え鮮明でクリアな音声を実現しているとしている。

同社によると、販売は 12 月下旬より開始する予定となっている。

## ■Poly：リニューアルした「Microsoft Teams Rooms」対応の会議ソリューション「Poly Studio キット」を発売

(PRTIMES:12月9日)

Poly (<https://www.poly.com/jp/ja>) (旧 Prantronics とポリコム) は、リニューアルした「Microsoft Teams Rooms」対応の会議ソリューション「Poly Studio キット」を発表。販売は 12 月 9 日から。

Poly Studio キットは、さまざまな構成で会議室の規模を問わず導入でき、会議の参加者全員に公平な会議体験を提供することが可能。

Poly Studio キットのラインナップには、「Poly Studio フォーカスルームキット」「Poly Studio 中規模会議室キット」「Poly Studio 大規模会議室キット」がある。

(1) Poly Studio フォーカスルームキット：Poly Studio P15 ビデオバーと Microsoft Teams Rooms 向け Poly ルーム PC (Dell 製もしくは Lenovo 製) が含まれている。会議参加者の発言をクリアに相手に届けるビームフォーミングマイクアレイのほか、高性能画像センサーによる画質の安定化、低光量時の自動補正機能などの特徴がある。

(2) Poly Studio 中規模会議室キット：Poly Studio USB ビデオバーと Microsoft Teams Rooms 対応 Poly

ルーム PC が含まれる。Poly DirectorAI 技術やビームフォーミングマイクアレイ、自動グループフレーミング、話者トラッキング機能などの特徴がある。

(3) Poly Studio 大規模会議室キット：Poly Studio E70 カメラと Microsoft Teams Room 向け Poly ルーム PC が含まれる。4K センサー搭載のデュアルレンズ、Poly DirectorAI 技術、2つの映像間のスムーズな画面転換、グループフレーミング、話者トラッキング機能などを搭載。音声は、別売りの「Poly Trio シリーズ」または「Poly Sync ファミリースマートスピーカーフォン」を選択可能となっている。

Poly は 15 年以上にわたりマイクロソフト社との協力関係にあり、ヘッドセット、スピーカーフォンをはじめ、オンライン会議製品に至るまで、最も幅広いポートフォリオで Microsoft Teams 認定を取得している。

## ■ テクトロニクス & フルーク：業界初、ポケット・サイズの光ファイバー識別器「FiberLert (ファイバーラート) 現用光識別器」を提供開始

(11月17日)

米フルーク・ネットワークスの日本法人である株式会社 テクトロニクス & フルーク (<https://jp.flukenetworks.com/>) (東京都港区) は、業界初のポケット・サイズの光ファイバー識別器である FiberLert 現用光識別器を 11 月 22 日より提供開始する。光ファイバー機器や配線インフラに係わる、配線管理・保守・設置などに携わる IT 担当者やエンジニアにとって必携のツール。



FiberLert 現用光識別器 (テクトロニクス & フルーク)

FiberLert は、光ファイバー信号（現用光：稼働中の光ファイバー信号、850nm～1,625nm。）の存在、極性、接続性を素早く識別できるもの。本器を光ファイバーの端面またはポートの手前に差し出すだけで、光と音でアクティブな現用光の存在が識別され、設定や結果の読み取りを行うこともなく、誰もが簡単に利用できるようになっている。

FiberLert で信号が存在する場所と存在しない場所が明確になるため、無駄なトラブルシューティング時間をなくすることができる。これにより、ユーザは、トランシーバーの故障やパッチ・コートの不具合など問題の原因をすばやく特定し解決することができるようになる。さらに、FiberLert は、シングルモード、マルチモード、UPC/APC のパッチ・コードおよびポートに対応している。また、ポートやパッチ・コードに接触することなくテストができるため、光ファイバー端面やポートの汚染・傷などの損傷リスクを低減できる。

FiberLert 現用光識別器の価格は、1 台 15,800 円（税別）。売上目標は 5000 台を目指している。

フルーク・ネットワークスは、ネットワークの認証試験、トラブルシューティングおよび重要な配線インフラの設置および保守を行う専門家のための敷設用ツールにおける世界的なリーディング・カンパニー。最も先端的なデータセンターの配線敷設を始め、最悪な環境下におけるサービスの復旧に至るまで、これまで培ったゆるぎない信頼性と比類無い性能の組み合わせにより、効率的なネットワーク敷設作業の完了を確実なものとするという。

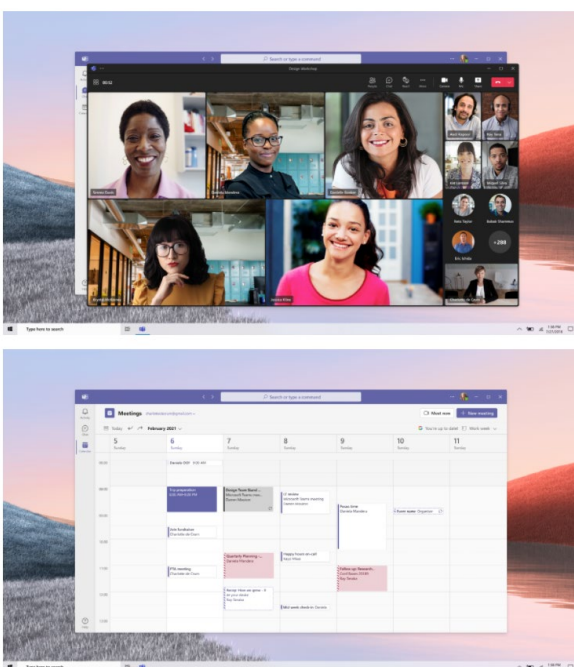
現在、日本を含む世界 50 カ国以上で事業を展開しており、フルーク・ネットワークの高品質、高付加価値ソリューションはすでに世界 20,000 以上の企業ネットワーク、システムインテグレーター等のネットワーク設計、構築の専門企業などで使用されている。

## ■マイクロソフト：月額利用料金を抑えた、小規模企業向けに設計された「Microsoft Teams Essentials」を発表、ビデオ会議は最大 30 時間、300 人まで参加可能、ストレージは 10GB も

(米国：12月1日、日本：12月2日)

マイクロソフトは、小規模企業や非営利組織、学校、コミュニティ向けに設計された「Microsoft Teams Essentials」 (<https://www.microsoft.com/ja-jp/microsoft-teams/group-chat-software>) を発表。

Microsoft Teams Essentials は、最大 30 時間のビデオ会議、グループチャット、ファイル共有、カレンダーなど、小規模企業が顧客サービスに必要とする機能が提供されている。ユーザあたり月額 4 ドル（日本での価格：430 円税抜き）と今日の市場で最も安価なオールインワンソリューションとなるという。



Microsoft Essentials イメージ (マイクロソフト)

また、チャットと会議を単一ソリューションに統合することで、小規模企業やコミュニティグループのコミュニケーションをシンプルにし、時間を節約できる

ようになっている。加えて、会議や会話の前後関係を把握できるようにもしている。

Microsoft Teams Essentials は、既存の Teams の機能に加えて、小規模企業やコミュニティグループを支援するために特別に設計された機能を備えている。

「Office365」のファイルを共同で作成・閲覧・編集・保存できるとともに、常時チャットやグループチャットテンプレート、モバイルチャットダッシュボードなど会話の継続性や会議などの迅速な開始、共有コンテンツへのすばやいアクセスなどの機能も兼ね備えている。

現在提供されている無料版の「Microsoft Teams」の提供は継続されるが、Teams Essentials では、会議時間の延長やストレージ容量の増加など制限が緩和されている。

ストレージはユーザあたり 10GB を提供している。これは無料版の Teams で提供されている 2 倍の容量となっている。

ビデオ会議の面では、最大 30 時間の会議が可能のため、1 対 1 の会議でもグループ会議でも、制限時間を超える心配はない。また、最大 300 人までの会議が可能であり、全員が同じバーチャルルームに集まることができるようになっている。

会議のスケジュールや管理の面では、Outlook カレンダーとの統合のほか、新たに Google カレンダーとの統合も提供される。

会議への招待は、参加者のメールアドレスを使って Teams の招待リストに追加するだけ。参加者には参加するためのリンクがついた会議の招待が届く。一方、Teams アプリを使用していない人はブラウザで会議を直接開くことができるようになっている。その際のサインアップ・サインイン・インストールは不要。

その他、ロビー、バーチャル背景、Together モード、ライブキャプション、ライブリアクションなどのツールや機能で魅力的な会議を開催できるという。

Teams Essentialsは、マイクロソフトがサポートし、Microsoft Azure のクラウド上で動作するという。これは、セキュリティ・信頼性・パフォーマンスの高さを示すとしている。

## ビジネス動向-海外

### ■8x8 社：クラウド型コミュニケーションプラットフォームを提供する Fuze 社を約 2 億 5,000 万ドルで買収、XCaaS 戦略強化の一環

(12月1日)

8x8 社（エイト・バイ・エイト）(<https://www.8x8.com/>)（米国・カリフォルニア州）は、企業向けクラウド型コミュニケーションプラットフォームを提供する Fuze 社（フューズ）(<https://www.fuze.com/>)を買収することで正式に合意したと発表した。買収金額は約 2 億 5,000 万ドル。

Fuze 社は、ユニファイドコミュニケーションとコンタクトセンター間のシームレスなカスタマーエクスペリエンスに特化したグローバルな事業展開を行っている。

買収は、8x8 社が現在提供している XCaaS (eXperience Communications as a Service) の強化の一環。研究開発、エンジニアリング、サポートのリソースを大幅に増強し、単一ベンダーによる UCaaS(Unified Communications as a Service)、CCaaS(Contact Center as a Service)、CPaaS(Communications Platform as a Service)ソリューションの統合を図る。加えて、特に欧州大陸におけるプレゼンスの強化を含む企業顧客基盤の拡大も狙う。

買収金額の約 2 億 5,000 万ドルの内訳は、現金約 1 億 3,000 万ドル、そして 8x8 社の普通株式約 1 億 2,000 万ドル。また、1 億 3,020 万ドルを上限として、Fuze 社の債務の返済と Fuze 社の一部の株主が保有する株

式の支払いに充当する。8x8 社にとって、本取引の完了後も非 GAAP ベースの収益性は維持される見込みとなっている。

8x8 社は、2021 年版「Gartner Magic Quadrant for Unified Communications as a Service, Worldwide」において Leader に（10 年連続）、Fuze 社は、Visionary に選出されている。また、「2021 Gartner Magic Quadrant for Contact Center as a Service」において 8x8 社は 7 年連続で「Challenger」に選出されている。

### ■Vonage 社：スウェーデンの通信機器大手エリクソン社がコミュニケーション API の Vonage 社を 62 億ドルで買収

(11月22日)

通信機器メーカーであるエリクソン社 (<https://www.ericsson.com/en>)（スウェーデン・ストックホルム）は、コミュニケーション API を提供する Vonage 社 (<https://www.vonagebusiness.jp/>)（米国・ニュージャージー州）を 62 億ドルで買収することを発表した。

エリクソン社にとって、インターネット、モビリティ、クラウド、5G の融合によるデジタルトランスフォーメーションやインテリジェントな通信の波の中、ワイヤレス企業でのプレゼンスを拡大し、グローバルなサービスを拡充する同社の長期的な戦略が背景にある。買収は Vonage 社取締役会において全会一致で承認された。

Vonage 社が提供するクラウドベースの「Vonage Communications Platform(VCP)」は世界中で 12 万を超える顧客と 100 万人を超える開発者にサービスを提供している。プラットフォームにより、開発者は、バックエンドインフラストラクチャやインターフェイスなしで、メッセージング・音声・ビデオなどの高品質の通信をアプリケーションや製品に組み込むことができる。また、そのプラットフォームの一部として、Unified Communications as a Service(UCaaS)および Contact

Center as a Service(CCaaS)ソリューションも提供している。

VCP は Vonage 社の収益の約 80%を占め、2020 年までの 3 年間で 20%を超える収益成長を実現。2021 年 9 月 30 日までの 12 ヶ月間の売上高は 14 億ドルで、同期間に同社は調整後の EDITDA マージンで 14%、フリーキャッシュフロー1 億 900 万ドルを達成している。

Vonage 社の社員数は、米国、EMEA、APAC 全体で 2,200 人。買収手続きが完了するとエリクソン社の完全子会社となる。同社の従業員は会社に残り、Vonage 社の CEO Rory Read 氏はエリクソン社のエグゼクティブチームに加わり、社長兼 CEO Borje Ekholm 氏の直属となる。Read 氏は、以前、デル社の最高経営責任者、AMD 社の CEO を歴任している。

今回の買収は、Vonage 社の株主の承認、規制当局の承認などを得た上で、2022 年前半に完了する予定となっている。

## セミナー・展示会情報

### <国内>

#### ■Zoom 活用セミナー

～Zoom の使い方、新機能、応用などをご紹介～

日時：12 月 22 日(水) 13:00～14:30

会場：オンラインセミナー

主催：リコージャパン株式会社

協賛：ZVC Japan 株式会社、ポリコムジャパン株式会社 (Poly)、株式会社プリンストン

詳細・申込：

<https://event.ricoh.co.jp/public/seminar/view/13872#/>

#### ■VOL.7 VB1 体験ウェビナー

日時：2022 年 1 月 13 日 (木) 16:00～17:00

会場：オンライン

主催：Bose Professional

詳細・申込：

<https://www.facebook.com/events/703489053956955>

※オールインワンビデオ会議デバイス「Bose Videobar VB1」の紹介。

#### ■ブイキューブセミナー (12 月～1 月)

「シンプルな配信だけではもったいない！ウェビナーツール&配信サポート 120%活用術」「ウェビナー運営者向け！もっと運用を楽にする Zoom ウェビナーとは？」

など

会場：オンラインセミナー／オンディマンド視聴もあり

詳細・申込：<https://jp.vcube.com/event/all>

#### ■Webex Meetings 関連ウェビナー (12 月～1 月)

「Webex デスクトップアプリから Webex アプリへのアップデートプロセスと必要アクションのご紹介」「Webex Meetings 新機能アップデート、ブレイクアウトセッションデモお披露目」

など（録画も視聴できます）

主催：シスコシステムズ合同会社

詳細・申込：

[https://www.cisco.com/c/m/ja\\_jp/training-events/events-webinars/collaboration-webinars.html](https://www.cisco.com/c/m/ja_jp/training-events/events-webinars/collaboration-webinars.html)

国内その他：<https://cnar.jp/cna/event-j.html>

海外その他：<https://cnar.jp/cna/event-r.html>

※イベント情報は随時情報が入り次第掲載しております。CNAR.jp サイトの情報もご参照ください。

## 業界の動き

遠隔会議・UC 業界は日々さまざまな動きがあります。この定期レポートの発行は月 2 回（プレスリリースと取材に基づく記事のみ）ですが、CNA レポート・ジャパンでは、それ以外の業界の動きに関連した国内外の情報を日々皆さんと共有しています。皆様の情報収集

のひとつとしてご活用いただければ有難いです。

■フェイスブック（遠隔会議&UCトレンドワッチ）

<https://www.facebook.com/unifiedcom>

■Twitter（遠隔会議&UCトレンドワッチ）

<https://twitter.com/cnarjapan>

■メーリングリスト（dte-forum）

<https://cnar.jp/cna/dteforum-ml.html>

## 定期レポートバックナンバー

定期レポートのバックナンバー（1999年～最新号）は下記で閲覧できます。

<https://cnar.jp/cna/cnareportarchive.htm>

## 編集後記

今年のカナレポート・ジャパンによる定期レポートはこの23号で終了です。来年は1月15日号からスタートです。

少し早いですが、皆様良い年をお迎えください。

今年もありがとうございました。

来年も何卒宜しくお願い申し上げます。

カナレポート・ジャパン 橋本啓介

**カナレポート・ジャパン 2021年12月15日号おわり**

ホームページ: <https://cnar.jp> お問い合わせ: [cnar@cnar.jp](mailto:cnar@cnar.jp)